

kaminorippo.org

付録5e：安息日の交通手段

このページは、第4の戒め「安息日」に関するシリーズの一部です。

1. 付録5a：安息日と教会に行く日、2つの異なるもの
2. 付録5b：現代において安息日を守る方法
3. 付録5c：日常生活における安息日の原則の適用
4. 付録5d：安息日の食事 — 実践的な指針
5. 付録5e：安息日の交通手段（現在のページです）。
6. 付録5f：安息日におけるテクノロジーと娯楽
7. 付録5g：仕事と安息日 — 現実世界の課題への対処

前回の記事では、安息日の食事について考え、準備と計画、そして必要性のルールによって、ストレスの原因となり得るものをどのように平安の時へと変えられるかを見てきました。今回は、これらと同じ原則が切実に必要とされる現代生活の別の領域、**交通手段**に目を向けます。今日の世界では、車、バス、飛行機、ライドシェアのアプリによって、移動は簡単で便利になっています。しかし、第4の戒めに従うには、私たちは立ち止まり、計画を立て、普段の労働をやめなければなりません。これが移動にどのように当てはまるかを理解することは、信者が不必要な仕事を避け、その日の聖性を守り、安息日に本来備わる休息の精神を保つ助けとなります。

交通手段が重要なのはなぜでしょうか

交通手段の問題は、今に始まったことではありません。古代には、移動は、品物を運ぶこと、家畜の世話をすること、市場へ行くことなど、仕事と結びついていました。ラビ的ユダヤ教は、安息日の移動距離について詳細な規則を定めました。このため歴史的に、律法

を守る多くのユダヤ人は、礼拝へ歩いて行けるよう、会堂の近くに住んできました。今日、キリスト教徒も、安息日に教会へ行くこと、家族を訪ねること、聖書の学びに参加すること、あるいは病院や刑務所を訪問するなどの憐れみの行いをすることについて、同じような問いに直面しています。この記事は、準備と必要性についての聖書の原則が移動にどのように当てはまるかを理解し、安息日にいつ、どのように移動するかについて、賢明で信仰に満ちた判断を下す助けとなります。

安息日と教会への出席について

信者が安息日に移動する最も一般的な理由の1つは、**教会の礼拝に出席すること**です。これは理解できることです。他の信者と共に集まって礼拝し、学ぶことは、励ましとなり得るからです。しかし、このシリーズの付録5aの記事ですでに確認したことを忘れないことが大切です。**安息日に教会へ行くことは、第4の戒めに含まれていません**（記事を読む）。この戒めは、仕事をやめ、その日を聖別し、休まなければならないと定めています。本文のどこにも、安息日に「礼拝に行かなければならない」とか「特定の礼拝の場所へ移動しなければならない」とは書かれていません。

イエスご自身も安息日に会堂へ行かれましたが（ルカによる福音書4章16節）、ご自分に従う者たちに、これを義務として教えたことは一度もありません。イエスの実践は、集まることが許されており、有益であり得ることを示していますが、規則や儀式を定めるものではありません。安息日は人のために造られたのであって、人が安息日のために造られたのではありません（マルコによる福音書2章27節）。その核心は、**休息と聖性であって、移動することや施設に通うことではありません**。

現代のキリスト教徒にとって、これは、**安息日を守る教会に出席するかどうかは自由であり、義務ではない**ということを意味します。第7日に他の信者と集まることに喜びと霊的な成長を見いだすなら、あなたは自由にそうすることができます。教会への移動がストレスを生み、休息のリズムを崩し、あるいは毎週長距離を運転せざるを得ない状況をもたらすなら、家にとどまり、聖書を学び、祈り、家族とその日を過ごすことも、同じように自由です。大切なのは、教会への移動を決まりきった習慣にして、あなたが守ろうとしている休息と聖性そのものを損なわないことです。

できる限り、**礼拝に出席する場合は、移動と準備が最小限で済む**ように、前もって計画してください。そのために、家からもっと近い地域の集まりに参加したり、自宅で聖書の学びの会を開いたり、安息日以外の時間に信者と交流したりすることも考えられます。伝統

や期待ではなく、聖性と休息に心を向けることで、あなたの安息日の守り方を、人間が作った要件ではなく神の戒めにかなうものにできます。

移動に関する一般的な指針

準備の日と**必要性のルール**という同じ原則は、交通手段にもそのまま当てはまります。一般に、安息日の移動は、とりわけ長距離の場合、**避けるか最小限にすべきです**。第4の戒めに従い、私たちは普段の労働をやめ、自分の影響が及ぶ他の人々も同じように労働をやめられるようにしなければなりません。毎週の安息日に遠くまで移動することを習慣にすると、神の休息の日を、またしてもストレスや疲労、移動の段取りに追われる日に変えてしまう危険があります。

長距離を移動する場合は、その移動が安息日の始まる前か終わった後になるよう、前もって計画してください。例えば、遠くに住む家族を訪ねるなら、金曜日の日没前に到着し、土曜日の日没後に出発するよう努めてください。そうすれば、穏やかな雰囲気が生まれ、慌ただしく動いたり、直前に準備したりせずに済みます。正当な理由で安息日に移動する必要があると分かっている場合は、給油、整備、経路の計画を前もって済ませ、車の準備をしておいてください。

同時に聖書は、**安息日にも憐れみの行いが許されている**ことを示しています（マタイによる福音書12章11–12節）。入院している人を訪ねたり、病気の人を慰めたり、投獄されている人に仕えたりするには、移動が必要になるかもしれません。そのような場合は、移動をできる限り簡素なものにし、社交のための外出に変えてはなりません。また、安息日の聖なる時間を常に心に留めてください。移動を通常のことではなく例外として扱うことで、安息日の聖性と安らぎを保つことができます。

自家用車と公共交通機関について

自家用車の運転について

安息日に自分の車やオートバイを使うこと自体が禁じられているわけではありません。実際、家族を訪ねたり、聖書の学びに参加したり、憐れみの行いをしたりするための短い移動には、必要になることもあります。しかし、**慎重に判断して行うべきです**。運転には常に故障や事故の危険が伴い、そのために、あなた自身や他の人が、避けることのできた仕事をせざるを得なくなる可能性があります。さらに、給油、整備、長距離の移動は、いず

れも平日と同じようなストレスや労働を増やします。できる限り、安息日の自家用車での移動は短距離にとどめ、車の準備（給油と整備）を事前に済ませ、聖なる時間への支障を最小限にする経路を計画してください。

タクシーとライドシェアサービスについて

これに対して、Uber、Lyft、タクシーなどのサービスを利用することは、安息日に、もっぱらあなたのために働く人を雇うことを伴います。これは、自分のために他の人を働かせてはならないという第4の戒めの禁止事項に違反します（出エジプト記20章10節）。これは、食事の配達サービスを利用することに似ています。たとえささやかな、あるいは時折のぜいたくに思えても、安息日の意図を損ない、あなたの信念について矛盾した印象を与えます。聖書が一貫して示す在り方は、聖なる時間に他の誰かを自分のために働かせる必要がないよう、前もって計画することです。

公共交通機関について

バス、電車、フェリーは、あなたが利用するかどうかにかかわらず、決まった時刻表で運行しているため、タクシーやライドシェアとは異なります。したがって、安息日に公共交通機関を利用することは、特に、自分で運転せずに信者の集まりに参加したり、憐れみの行いをしたりできるのであれば、許される場合があります。安息日に金銭を扱わずに済むよう、できる限り、切符や定期券は事前に購入してください。移動は簡素なものにし、不必要な立ち寄りをしてはなりません。また、その日の聖性を保つため、移動中も敬虔な心構えを保ってください。